

令和7年度後期終業式校長講話

令和8年3月23日（月）

おはようございます。校長の鴨志田新一です。今日は、令和7年度後期終業式です。令和7年度の1年間が終わります。

3月11日には修了式がありました。常盤高校で5年間学んだ修了生が、それぞれの新しい世界へ巣立っていきました。新しいステージ、新しい社会での活躍を心から願っています。

4月には、80名の新入生が入学してきます。また、皆さんも一つずつ上の学年に進級します。春休みは、この1年間の学びを振り返るとともに、新しい1年がスムーズにスタートできるよう、大切な時間を過ごしてください。

さて、先週、イタリアのミラノ・コルティナ冬季オリンピック、パラリンピックが閉幕しました。スケートやスノーボードなど多くの種目で日本人選手が活躍し、誇らしい思いです。

私は、その中の一人であるスピードスケートの高木美帆選手に長い間注目してきました。高木選手は、御存じのとおり平昌（びよんちゃん）、北京（ぺきん）、ミラノの3つのオリンピックで、金メダル2個を含む10個のメダルを獲得した世界を代表するスーパーアスリートです。

今から8年前の平昌（びよんちゃん）オリンピックの後、当時、私は文部科学省に勤務していて、オリンピックでメダルを獲得した選手たちが文科省へ表敬訪問に来たことがありました。その時、高木選手を間近で見ることができました。テレビで見て思っていたより小さく華奢で、とても笑顔が素敵で、すぐにファン、いわゆる「推し」になってしまいました。

順風満帆な競技人生のように見えますが、挫折も味わっています。彼女は中学校3年の2010年にバンクーバーオリンピックの代表となっています。当時、スーパー中学生といわれていました。けれども、オリンピックでは参加選手中最下位という屈辱もありました。

そして、4年後のソチ大会では代表選考から漏れてしまい参加できませんでした。周りから見れば挫折でしょう。しかし、高木さんはこう言っています。

「一生懸命、これ以上なすすべもないくらいやって、それでもダメだったのが挫折」

スケートに人生をかけるという決意と努力で、4年後の平昌（びよんちゃん）オリンピックで遂に金メダルを含むメダルを獲得するに至りました。

その後の活躍は、皆さんも知っている通りです。

高木さんのもう一つの言葉です。

「今できること。今しかできないこと。今だからできること。しっかりじっくり考えて、私なりにこの道を進んでいきたい。」

15歳で5年後に看護師になるという決意で常盤高校に入学し、今を歩んでいる皆さんと通じるものがあるかもしれません。過去の積み重ねが今であり、今の積み重ねが未来となります。誘惑があるかもしれない、迷いがあるかもしれない、けれども、今を大切にして、自分の道を進んでください。その先には、きっと素晴らしい幸せが待っています。

最後に「凡事徹底」についてお話します。「当たり前のことを当たり前にする」私は、このことを「凡事徹底」と呼んでいます。

人間としての、生きる上でのマナー、礼儀、服装、あいさつ、これらのことを自然に行うことで、何事にも耐えることができる人間、志が高く、品格のある人間になることができます。

しかし、最初から自然に行うことはできません。最初は、意識して、徹底することで、自然となってきます。

春休み中も、今日の話思い出して、今を大切に積み重ねていき、有意義な時間を送ってください。

それでは、4月8日に、一つ学年が上がった皆さんと元気で会えるように事故や怪我のないよう、気を付けてください。何かトラブルが発生したときは、自分で解決しようとせず、必ず保護者や学校に相談をしてください。

私からは以上です。